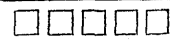


# 新入園児の健康保育

醫學博士 廣 瀨 興



今年も、四月になれば各幼稚園には多数の新しい幼児達が賑かに入園して参ります。この新入園児に對して、吾々保母は如何なる心がまへを以て迎へべきであるか。私はここに健康上の是非も必要なる注意の二三を述べて見ませう。

今年から中學の入學考査が大變、身體發育や體力にも考慮される様になりましたが、その結果、今更の如く小學校でも家庭でも、急に小兒の身體に注意を向けて來ました。そして試験間際になつてあれこれ相談に來られる方があります。併し、私共から云はせれば小學校時代の所謂筋骨薄弱が虚弱兒童には多くは小學校時代に初めて始つたものでなく、已に幼兒時代にその原因のあるものが大部分で、又、この時代に少し注意すればこんなにはならなかつたであらうと思はれる例が極めて多いのです。そんなことを考へても幼稚園に於ける健康保育の問題の重要性が解り

ます。又、幼稚園の健康保育が個々別々の家庭では不可能の問題を易く解決する場合も多いのです。そして、幼稚園の健康保育も、新入園時の種々の注意や幼兒の取扱や躑け方が大變大切であつて、その處置の如何によつては、反對に悪い結果をさへ招來する場合も少くないのであります。

新入園児に對して、第一に調べて置かねばならぬ事柄は。

- (一) 麻疹を經過したか (ロ) 百日咳 (ハ) 水痘 (ニ) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) (ホ) 「チフテリア」豫防

注射 (ヘ) 猩紅熱

麻疹は三歳以上の幼兒なれば多くは既に經過してゐるのが普通であるが、時に應々未經過兒もあつて春先の流行時、新入園や新入學に際し、多数の小兒と接する機會に初めて感染する例が多い故、あらかじめ注意せねばならない。麻疹は年長兒程、軽く經過するのが常であるが、(俗間では年長程重いと云はれてゐるが之は誤りである) 若し、

其の兒が身體虛弱であれば勿論、そうでなくとも麻疹の初期に早く母親等の血清を注射すれば軽く経過する故に家庭にすゝめて善處するがよい。又、園兒に一人でも麻疹が發生したなら、他の未經過兒にも血清を注射して、之を豫防するか、或は軽く経過せしめるかするところが賢明であります。幼稚園へ行つて麻疹をもらつて來ましたご内心大變不平の母親をよく見受けますから注意を要します。麻疹の潜伏期は一〇—一一日ですから、そのつもりで他の未經過兒に對して警戒せねばなりません。

百日咳は幼稚園にまつては大敵ですが、新入園兒は勿論、全園兒に何名、百日咳未經過兒があるかよく調べて、出來れば保護者會と相談し、豫防注射を勵行するがよい。近頃の豫防ワクチンは新鮮のものを多量に注射するので相當に有效である。私共の保育所では昨年十月七十名の託兒に行つたところ、附近に可成流行したが今日まで一名の感染もなかつた。この豫防注射は有効期間が短く、その製造元にもよるが、せいぜい一冬位見做すべきである。又、百日咳は冬に限らず一年中發生するから常に警戒を要するので、保姆は百日咳の早期發見に萬全を期すべきです。有咳兒にはマスクを掛させるか、あやしい咳の兒は登園を遠慮させることを勇敢に實行することです。百日咳は初期のカタル期にまつてあの特有の咳をする前の時期の方が却

つて傳染力が強いのですから餘程注意が肝要で、手遅れをするに遂ひには多數の園兒に蔓延して幼稚園を一時閉鎖せしめねばならぬ様なことが應々出來いたします。本症潜伏期は二—三日ですから若し、一人でも發生したら直ちに數日休園して様子を觀る必要があります。

百日咳で今一つ困ることは癒つてから何時登園を許すか云ふことです。傳染力が無くなつたご云ふ時期は専門の醫師でも仲々判定が困難ですし、母親の方は一日も早く登園させ度いのは山々ですから、よく、もう咳が出なくなりましたご云つて來ます。それではごあづかつて見て、飛んだりはねたりするご又特有の咳を出すご云ふことになり他の保護者から大變の抗議を持ち込まれたりします。普通の経過をとり、初期に注射したりしますご大體、二ヶ月位で晝間咳が出なくなり、罕に餘りあばれたり、意氣込んだりした時だけ咳をする程度になれば、先づ傳染力はないご見做すべきですから一應専門醫の診療を受けた後、登園を許すべきです。猶、當分母親の云ひ分を總て信頼せず、二三日、マスクを掛けさせて監視を忘つてはならない。猶、百日咳經過兒は其後六ヶ月位は全快しても、感冒に患つたり、氣管枝カタルの時に又再び特有の咳に類似の咳を出すごを記憶して置くべきです。

水痘も流行性に來ますが高熱位で比較的危險のない皮膚

病ですが、今年の如く天然痘が多い時期は一層早期に発見して登園禁止すべきです。潜伏期は一四―一七日の長期ですから他の園児に感染してゐるかゝるのを観察するためにこの長期間休園することも出来ず甚だ困ります。水泡性の皮膚疹を發見したなら皮膚の露出部のものは直ぐ繃帯してやることです。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)之も潜伏期が一八―二一日の長期のため思ひ出した時分にぼつ／＼發生して、眞に困る病氣の一つですし、初期の咽頭痛のある頃に既に傳染力がありますので早期發見が肝要です。發熱、咽喉カタル、耳下痛があつて幾分、耳下が腫れ氣味であつたら直ぐ保護者に注意して一兩日、監視することが必要です。近頃はズルフォンアミド劑例へばテラポール、アルバジール等と云ふ特效藥が創製されたので大變治癒も早く傳染も少い様です。

デフテリアも一般に多い小兒傳染病ですが、幸ひ、豫防注射が完成されてゐます故、新入園児に未だ之が施行されて居らぬなら是非奨めねばなりません。約四年間は有效と云はれてゐます。其故、今後は生後一年目、四年目、八年目の三回施行することが安全です。今時、若し小兒にデフテリアにでも罹病させたらそれこそ保護者の責任です。

猩紅熱も今、豫防注射がありますが未だ試験時代です。

併し副作用がありませんからやつて置く方がよろしい。

次に新入園児に注意することは

- (イ) 痙攣(ひきつけ)の癖
- (ロ) 腹痛の癖
- (ハ) 喘息の癖
- (ニ) 脱腸の癖
- (ホ) 遺尿の癖
- (ヘ) 偏食の癖
- (ト) 口を開いて寝る癖
- (チ) イビキをかいて寝る癖
- (リ) 鼻をたらず癖
- (ヌ) 熱を出し易い癖

等々保護者より本人の家内での平素の體質をよく聴取し、今後の保育の参考とすべきである。ひきつけや腹痛の癖は蛔蟲のために來ることも多く、或は體質虚弱や偏食なごのため抵抗力弱く少しの發熱なごでひきつけるものもある。喘息のあるものは塵埃の多い遊戯室などは一層起り易い。脱腸のあるものは萬一委託中脱出して元納せぬ時は取り敢へず熱いタオル濕布を脱腸部に當て靜かに元に納める工夫をし、然る後、歸宅せしめること。元に納められず疼痛が増して來る様なれば早速外科的手術を要する極めて危険の疾病です。尿をもらし易い兒は身體虚弱か、乳兒より生來の膀胱方の悪いために來るかである。よく原因を確め體質を改造する様努力し偏食あるものは之を矯正し或は肝油を與へたり、或は規則正しく排尿せしめたり種々試みることも有効である。偏食の癖あるものは相當に多い故、幼稚園でも時々辨當を持つて來させるか、猶一層有效なのは全園給食によつて矯正することである。小學校へ行つてからの筋

骨薄弱の大部分の原因を爲してゐますからこの事は極めて重要です。

口を開いて寝たり、イビキをかくものは扁桃腺肥大のものに多い。鼻をたらず子も腺病質や、扁桃腺肥大兒或は慢性の鼻炎のあるものに起るのであるが常に鼻かむ習慣をつけたり、一方、榮養に注意したり、日光浴させたりする時は漸次輕快するものである。

熱を出し易い子は多くは扁桃腺肥大さか、肺門淋巴腺腫脹のものであるから一二週間も委託して猶、微熱でも出る様なれば受託を考慮する必要がある。

初めて幼稚園には入るこ云ふこは幼兒によつて精神的にも肉體的にも大變な變革ですから少くも當初一ヶ月間はよく注意して新入園兒は特別に觀察してゐるこが肝要です。

(イ)體重の増減

(ロ)登園時の機嫌の如何

(ハ)歸宅時の疲勞の程度

(ニ)微熱の有無

家庭内のみの生活では潜伏して居つた結核が急に活動性になつて、疲勞を覺えさせたり微熱を發せしめたりするこがある。それ故、新入園兒には必ず

(一)體重の測定

(二)結核の反應(マントウ氏反應)

(三)腸寄生蟲検査(蛔蟲、蟯蟲)

この三検査は實行し度いものである。猶、出來れば、潜伏毒の検査、之も、井出氏反應によれば一人數錢の費用で、耳よりの採血で簡單に出來、相當に正確である。斯様な基本的な検査を怠つてゐるこ、後々の如何なる教養的保育の努力も少しの効果も上げ得られない場合がある。

猶、新入園の機會を利用して其の年齢、家庭生活の程度に應じて漸次、健康上の良習慣を養ふ様謀けるこが大切である。例へば、

(イ)手を洗ふこ (ロ)鼻をかむ (ハ)うがひ (ニ)齒みがき (ホ)鼻呼吸 (ヘ)深呼吸 (ト)正しい姿勢

(チ)眼をこすらぬ習慣 (リ)咀嚼 (ヌ)偏食矯正等、健康保育の絶好の機會である。

以上の如く基本的検査を新入園期に施行し、漸次健康上の良習慣即ち健康保育を實行して行けば必ず體質的に改造せられ、立派な身體となり、従つて精神的にも落ち付いた氣持が出來、心身共に正しい發育を期待するこが出来るであらう。